

Nara Women's University

障害児校との交流教育; 中学・高等学校4年間の実践報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学文学部附属中・高等学校 公開日: 2010-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 荒木, 孝子, 林, 良樹, 山中, 竹一, 山中, 昭生 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10935/2172

障害児校との交流教育

— 中学・高等学校4年間の実践報告 —

荒木 孝子 林 良樹
山中 竹一 山中 昭生

I. はじめに

中学2年生から高校2年生までの4年間、障害児校との交流を行ったが、その動機と経過は次のとおりである。

中学1年生の時に、数名の生徒を多くの者で「いじめる」ということがあり、そのために、道徳・HRの課題を「自分のまわりにいる生徒とわけへだてなくつきあうことを考えさせる」ということにした。そこで、「友情・友だち」をテーマとして、班ごとに放送劇を製作、発表させたりした。

また、同和教育を道徳・HRの時間に扱うということが学校の課題としてあったので、上記の趣旨にそって目を学校外へ向けることを考えた。1981年は国際障害者年であり、また学校で「典子は今」の映画鑑賞の予定があったので、「心身障害者に対する理解を深める」というテーマで計画をたてた。

はじめは、資料を配って説明したり、班ごとに調べたことを発表させたり、HRで話しあいなどをしてきたが、さらに理解を深めるために、同じ年令の障害をもつ子供との交流を考えた。障害児校といってもいろいろあるので種類別にし、さらに本校に比較的近いところという条件で、奈良教育大学附属中学校障害児学級、奈良県立西の京養護学校、奈良県立盲学校、奈良県立ろう学校の4校を選んだ。各校に趣旨を説明して協力をお願いしたところ、いずれの学校も快く承知してくださり、とりあえず、学校訪問というところから交流を始めた。これが1年目である。

担任は3人であるので、2年目は、相手校として、西の京養護学校、盲学校、ろう学校の3校にしぼった。2年間の交流の後、生徒にアンケートをとったが、これを資料としてのせておいた。この結果をみると、交流を続けたいという者が半分以上あったので、高校1年生からは有志として交流グループを作ることにした。このときには、西の京養護学校とろう学校の2つのグループができた。この二つのグループを合わせて参加者は約30人（全体の4分の1）で、ほとんどが女子であった。交流は、高校1年、2年の2年間続いたが、高校3年は、受験準備のため、個人的な交流にとどまった。

次にあげるのは、この4年間の交流の記録と反省である。

II. 交流の記録

(1) 1年目の取り組み（中学2年生）－1981年度

1. 経 過

(1) 10月29日(木) HR

クラスごとに趣旨を説明し、その後、生徒がこれまでに、障害者について、見たり、聞いたり、交際した経験と感想を発表させる。

(2) 11月2日(月) 道徳

プリントした資料（「心身障害児の理解のために」文部省、昭和55年）にそって、障害の種類

と実際について説明する。

(3) 11月9日(月) 道徳

各クラスで、5つのグループを作り、グループごとに、取り組むテーマの決定と、その方法について討論させる。

各 班 の テ ー マ

班 組	A	B	C
1	聴覚障害	視覚障害	情緒障害
2	視覚障害	聴覚障害	言語障害
3	聴覚障害	精神薄弱	視覚障害
4	精神薄弱	聴覚障害	視覚障害
5	精神薄弱	肢体不自由	精神薄弱

(4) 11月12日(木) 学校文化行事

学校文化行事で映画「典子は今」を鑑賞する。映画の感想文を各自に書かせる。

(5) 11月26日(木) HR

グループ別討論の継続。

(6) 11月下旬

障害児校の学校訪問を検討し、各校に願います。訪問校は次の4校。

- ① 奈良教育大学附属中学校障害児学級
- ② 奈良県立西の京養護学校
- ③ 奈良県立盲学校
- ④ 奈良県立ろう学校

(7) 11月30日(月) 道徳

3クラス合同で、学校訪問および交流についての説明と注意をし、各訪問校へ行く班を決める。

(8) 12月3日(木) HR

西の京養護学校、盲学校、ろう学校の各校と交流のための具体的な打ち合わせをする。

(9) 12月7日(月) 道徳

奈良教育大附属中学校障害児学級と各班の班長とで、交流の打ち合わせをする。

(10) 12月10日(木) HR

学校訪問、この訪問の感想文を各自に書かせ、後で文集「私達の仲間」を作らせる。

(11) 12月14日(月) 道徳

各班ごとに、レポート作製のための討論と作業をさせる。

(12) 12月17日(木) HR

各班で調べたことをクラスで発表する。

(13) 12月24日(木) HR

文集を各訪問校へ届ける。

(14) 訪問した学校より、交流についての感想をもらう。

2. 交流相手校との交流教育の実践

実施日時 1981年12月10日 午後 相手校訪問

<奈良県立盲学校>

- ① 本校参加生徒数 31人
- ② 相手校の実態 生徒数64人（幼稚部3人、小学部12人、中学部10人、高等学校普通科本科25人、専攻部14人）
但し、重複障害児6人（小学部4人、中学部2人）を含む。
- ③ 交流内容
 - クラブ活動見学
小学高学年3人、中学生8人、計11人による盲人バレーボール。
 - 挨拶と講和
盲学校長、長野尻基正先生と、同校教諭醍醐照正先生から盲学校の歴史と現状について聞く。
 - 座談会
盲学校中学生8人と本校生徒が一堂に会し、自己紹介、日常生活、趣味、日頃思っていることなどを語り合う。
 - 校舎内見学
盲児童、生徒の学校生活を知るために、校内の施設、設備、教材、教具類の見学と説明、指導を受ける。
- ④ 事後指導
 - 本校生徒の感想文集作製。
 - 本校生徒の「声の便り」（録音テープ）作製。
 - 文集とテープを盲学校へ届ける。
 - 盲学校より、卓球大会と生徒のメッセージを集録したテープが本校に届けられる。
- ⑤ 成果
 - 盲学校生徒の生活の一部分を理解した。
 - 盲人に対する暗いイメージと偏見を払拭した。
 - 障害者もおなじ仲間という認識をもった。
 - 全盲生と弱視生徒が協力しあう姿をみて、自分達の仲間づくりの反省ができた。
 - 障害者に対する社会的な配慮に関心をもった。

<奈良県立ろう学校>

- ① 本校参加生徒数 31人
- ② 相手校の実態 生徒数 中学部26人、高等部20人。
教員数 23人（中高部）
- ③ 交流内容
 - 映画
ろう学校についての8mm映画（30分）を見る。
 - 生徒どおしの話し合い
両校ともに、4つのグループに分かれ、4つの教室で話し合う。内容は自己紹介、趣味、家庭のこと、その他。この時、各教室に先生がついておられ、言葉の不明な部分を解説してもらった。また生徒の自己紹介をしたプリントが用意されていた。

・講話

ろう学校の坂本先生より、生徒の質問にそって、学校の実状についてお話を聞く。

④ 事後指導

本校生徒の感想文集を作製し、ろう学校へ届ける。

⑤ 成果

- ・言葉の障害があるために、今まで交流をもったことのない生徒との話し合いを、不十分ながらももつことができた。
- ・障害の実状について、ある程度理解したと思われる。訪問する前には、相手校の生徒に対して、過度の思いこみがあったようである。

<奈良県立西の京養護学校>

① 本校参加生徒数 32人

② 相手校の実態 中学部生徒数45人、教官16人

③ 交流内容

・授業見学

実技（体育、陶芸など）は、教室に入って見学。

・校舎内見学

風呂のある教室など、ユニークな教育についての話を伺いながら見学。生徒の作品（版画や陶器など）を見せていただく。

・相手校教頭、益井先生の講話（会議室）

- 1) 障害児全般について
- 2) 精神薄弱児について……原因、症状、対策等
- 3) 知恵遅れの子から学びとる力について

④ 事後指導

本校生徒の感想文集を作製し、西の京養護学校へ届ける。

⑤ 成果

- ・精神薄弱児の授業を見学し、その実状をある程度把握できた。
- ・教頭先生の講話により
 - 1) 障害児の生れる原因、実状、社会の対策等を理解した。
 - 2) 自分達の日常生活を反省した。
- ・障害児の作品に接し、その純真さに感動した。
- ・交流したい、という気持が生徒の中から湧いてきた。

<奈良教育大学附属中学校障害児学級>

① 本校参加生徒数 24人

② 相手校の実態 生徒数27人（全員交流に参加）

③ 事前指導

12月7日、教育大の三村先生と、グループの班長3名で、打ち合わせ。授業参観だけでは、実態がよくわからないので、お互いに身体を動かしてみても、という意見になった。学校訪問前にお互いの参加生徒を4つのグループに分け、自己紹介を考えておく。

④ 交流内容

- ・自己紹介
- ・縄とび競争（班ごとにならわれて、競争）

- キック・ベースボール
- 相手校の三村先生を囲んで、質問の時間をもつ。
- ⑤ 事後指導
 - 本校生徒の感想文集を作製し、教育大附属中学校障害児学級へ届ける。
- ⑥ 成果
 - 相手校の生徒には、通学バスの中で接したりして、普段から会う機会があったので、わりあい素直に接することができ、今後友達になりたいという気持ちが自然に生れてきた。
 - 自分達より、縄とびや、キック・ベースボールのうまい相手校の生徒達に対して、感心した。
 - 相手校の障害児の生徒達も、自分達と同じ考えをもっていること、その上、自分達より明るく、素直に努力している姿を見て、感心すると共に、日常の生活を反省した。

〔2〕2年目の取り組み（中学3年生）－1982年度

1. 経 過

- (1) 4月上旬
 - 学年で交流教育についての年間計画をたてる。
 - 4月下旬
 - 本校学校長より、各交流相手校へ交流依頼書送付。
- (2) 5月14日（金）
 - 各交流相手校教官と、本校担任との打ち合わせ。
- (3) 5月19日（水）学年PTA
 - 講演、「障害者問題について」。講師、向野幾世先生（「お母さん、ぼくが生れてごめんなさい」「いいんですか、車椅子の花嫁でも」等の著者。奈良県障害児研究センター勤務）
- (4) 5月24日（火） 道徳
 - 生徒の班分けと、今年度活動について、担任より説明。
- (5) 6月15日（火） 道徳
 - グループごとに相談。およびリーダー選出。
- (6) 7月12日（月）
 - 西の京養護学校訪問（担任とリーダー）
 - 作品交流（本校生徒作品を西の京養護学校、及び盲学校に於て展示）
- (7) 9月6日（月）
 - 盲学校、ろう学校との打ち合わせ。
 - （本校学園祭への招待方法検討。盲学校生徒作品を本校へ運ぶ。）
 - 9月7日（火）
 - 西の京養護学校との打ち合わせ。
 - （学園祭作品交流、音楽会招待、学園祭訪問について検討）
 - 9月上旬
 - 学年で学園祭の接待等について、グループごとに相談。
 - ろう学校グループ — 自己紹介パンフレットを作る。
 - 盲学校グループ — テープに自分達の声を吹き込む。
 - 担任は、相手校と再度電話で打ち合わせをする。
 - 学園祭プログラムを送る。

- (8) 9月22日(水)
 本校学園祭に、盲学校(生徒11人、教官7人)、ろう学校(生徒32人、教官10人)を招待。
 午前10時～午後2時 案内。昼食は模擬店で。
 午後2時～午後3時 ろう学校生徒と、本校ろう学校グループとの懇談。
 9月22日～23日
 本校学園祭に、盲学校、西の京養護学校生徒作品を展示。
- (9) 9月30日(木) ゆとり
 障害児交流教育映画「ぼくらの学校」鑑賞。
- (10) 10月5日(火) 道徳
 各グループで、学園祭の交流についての反省会。
- (11) 10月16日(土)
 ろう学校グループ、スポーツ大会打ち合わせのため、相手校訪問。(本校:担任、生徒4人、
 相手校:教官2人、生徒3人)
- (12) 10月23日(土)
 ろう学校にて、バレーボール大会。その後、フォークダンス、グループごとの懇談。
- (13) 10月28日(木) ゆとり
 奈良教育大学附属中学校障害児学級の劇鑑賞。
- (14) 10月30日(土)
 西の京グループの打ち合わせ(音楽会招待・交流会参加について)。
- (15) 11月11日(木) 校内音楽会
 本校音楽会へ、西の京養護学校を招待、(生徒50人、教官16人)。音楽会を聴いてもらうと共に、
 相手校生徒による「あそび虫の歌」演奏。
 大教室で一緒に昼食後、校内を案内する。
- (16) 11月18日(木) HR、ゆとり
 西の京養護学校の「秋の文化交流会」へ参加(生徒40人)。
 盲学校、ろう学校グループは、学校で、文化祭交流の反省会后、映画「明日の空は青い空」
 鑑賞。
- (17) 11月20日(土)
 ろう学校文化祭に展示してもらう作品を発送。生徒各自がメッセージを書いて送る。
- (18) 11月21日(日)
 ろう学校文化祭訪問(ろう学校グループ全員)
 午前10時～午後2時 昼食はバザーでとる。
 西の京養護学校文化祭訪問(西の京グループ有志)
 午前9時～正午
- (19) 11月30日(火) 道徳
 交流教育のまとめ。各グループ別にリーダー中心でまとめと反省。
- (20) 12月13日(火) 道徳
 盲学校と「声のたより」(テープ)交換のためのテープ作製。
- (21) 12月16日(木) 終りの会
 交流教育アンケート実施(資料参照)

- ㉒ 12月20日（月）
交流教育の感想文メ切り。
- ㉓ 1月下旬
生徒の感想文から、グループごとに文集「私達の仲間」を作製。各交流相手校へ届ける。各交流相手校より、感想及び意見をいただく。
- ㉔ 2月1日（火）
盲学校教官6名と反省会をもつ（盲学校にて）。

2. 交流相手校との交流教育の実践

＜奈良県立盲学校＞

- ① 本校参加生徒数 40人
- ② 交流相手校の実態 生徒数 中等部11人（うち重複障害4人）、教官6人
- ③ 交流内容
 - 作品交流
本校生徒の作品を7月に盲学校で展示。
盲学校生徒作品を9月に本校学園祭に展示。
 - 本校学園祭に招待（9月22日、10：00～14：00）
本校学園祭に中学部全員を招待する。
日程 10：00 盲学校生徒11人と教官6人、バス運転手1人、合計18人がスクールバスで来校。
本校代表生徒 歓迎の挨拶。
盲学校生徒1人に、本校生徒1人が付き添い、展示場を案内してまわる。
 - 11：00 講堂で、劇「国境に春が……」鑑賞。
 - 12：00 模擬店で昼食。
 - 13：00 野外ステージ「クイズ100人に聞きました」に参加。
 - 13：30 展示案内。
 - 14：00 両校の挨拶と握手で別れる。
メッセージと録音テープ贈呈。



「この絵はねえ……。」



「おしゃもじって、どこの特産物……。」

④ 事後指導

- 反省会をもった。
- 感想文の提出。
- アンケート調査の実施。
- 「声の便り」交換。

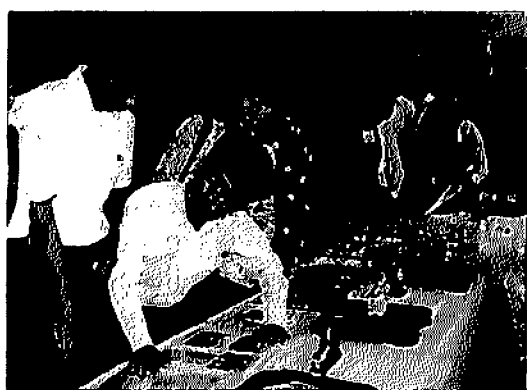
⑤ 成果

本校の側から

- 街頭でさりげなく盲人に手をかすことができるようになった。
- 障害者に対する不安がなくなった。
- 盲人に対する暗いイメージがなくなった。
- 盲学校の生徒に対する仲間意識が芽ばえた。
- 盲学校の生徒から学び、自己発見した者もいる。

盲学校の側から

- 普通学校の様子がよくわかった。
- 本校の学園祭の演劇を鑑賞して、盲学校の演劇発表の参考とした。
- 本校の学園祭の展示に接して、学習意欲が高まった。
- 盲学校の狭いわくの外に、友人を求めることができることを知った。
- バスの中で本校の生徒に話しかけられてうれしかった。



「うまいもんだろう……。」

<奈良県立ろう学校>

- ① 本校参加生徒数 39人
- ② 交流相手校の実態 生徒数 中学部28人、高等部6人、計34人
教官15人
- ③ 交流内容
 - 本校の学園祭に招待（9月22日）
相手校、本校の生徒はそれぞれ4つの班に分かれ、班ごとに展示を見てまわる。昼食は模擬店で一緒に食べる。2時から大教室で、班ごとに懇談する。実行委員7人が、全体の進行をはかる。両校ともに、自己紹介のパンフレットを用意する。
 - スポーツ大会（10月23日）ろう学校にて
体育館でバレーボールの混成チームを作って、バレーボールをする。その後、フォークダンス、懇談、ゲームをする。
 - ろう学校文化祭に参加（11月21日）
展示、演奏などを見学。本校の生徒の美術、工芸作品を展示してもらう。また、ろう学校の生徒にあてた「おたより」を全員が書き、これも展示される。昼食はバザーにてとる。
- ④ 事後指導
 - 学園祭後、反省会。12月に全体の反省会をもった。
 - 感想文を書かせ、アンケートをとった。
- ⑤ 成果
 - 昨年に比べて、交流の回数も多く、内容的にも、両校共に行動する事があったので、接触の仕方もスムーズになり、緊張感も少なくなったと言える。
 - 偏見を抱いていた者の中にも、偏見を持たなくなったり、またそうでない場合でも、相手に対する理解を増したと言える。個人的に友人になり、文通をしている生徒が全体の1/3いる。

<奈良県立西の京養護学校>

- ① 本校参加生徒数 40人
- ② 交流相手校の実態 中学部生徒数52人、教官16人
- ③ 交流内容
 - 作品交流
本校生徒作品を西の京養護学校図書室に展示。
相手校作品を本校学園祭に展示。
 - 音楽会招待（10：00～14：30）
本校音楽会に西の京養護学校中学部生徒全員を招待し、「あそび虫の歌」を合唱していただく。
昼食は大教室で、西の京グループの生徒達と弁当を食べる。昼休み、校内を案内した後、午後の部を少し鑑賞してから、スクールバスで帰校される。
 - 西の京養護学校、「秋の文化交流会」午後の部に参加。



「ようこそ、西の京養護学校のみなさん。」

参加校35校（約300人）、障害児の交流会なので、本校生徒は、みこしかつぎ、みかん配り、風船くばりのような仕事を、ボランティアとして、受けもつ。

- 内容
- 1) プラカードを持ち、入場行進。
 - 2) みんなで歌おう（本校女子生徒、歌のリード）。
 - 3) おみこし入場（みかん配り）。
 - 4) おみこし競争。
 - 5) みんなで踊ろう（フォークダンス）。
 - 6) 風船とばし。

- 相手校文化祭に参加（本校生徒西の京グループ有志のみ）
午前中劇を鑑賞。先生も生徒も全員出演の大きかりなものであった。

④ 事後指導

- 反省会をもった。
- 生徒に感想文を書かせると共に、アンケートをとった。

⑤ 成果

- 生徒の文集の中にも見られるように、今年はじめて、直接に交流して、実際の姿に接し、大部分の者が偏見をもたなくなった。それとともに、障害児に対して、各自何かを考える機会となった。
- 交流前は緊張していたが、実際に接してみると、案外スムーズに、楽しく交流できた。
- 相手校教官と、本校リーダーの話し合いを何回か持ったために、事前の準備、および当日の行動に関しては、十分に計画をねり、打ち合わせる時間があった。障害児に対する理解、ひいては人間全般に対する思いやりが、少しは身についたと思われる。

〔3〕3年目の取り組み（高等学校1年生）－1983年度

高等学校になってからは有志グループによる交流となったので、そのグループごとに、記録する。

<西の京養護学校グループ>

1. 本校参加生徒数 8人
2. 相手校生徒数 高等部1年生21人、教官数6人
3. 経過および交流内容

(1) 5月23日（月）

西の京養護学校との年間交流の打ち合わせ。

- 学級単位の交流のため、3組にグループわけする。

	1組	2組	3組
本校	3人	3人	2人
相手校	7人	7人	7人

(2) 6月28日（土）

7月8日、初めての交流のための打ち合わせ。

(3) 7月6日（水）

交流会直前の打ち合わせ。

- (4) 7月8日(金) 西の京養護学校にて
初めての交流会
- 視聴覚教室で自己紹介(相手校生徒より花輪をもらう)。
 - 各学級の終りの会に入る。
 - 交流会後、8月24日の交流会の打ち合わせ。
- (5) 7月22日(金)
夏休み交流会の打ち合わせ。朝の会后、特別な交流時間をもらうことに決定。
- (6) 7月30日(土)
8月24日の交流会についての打ち合わせ。
- 特別もらった時間……組ごとに旗を作る。
 - 花輪のおかえしに、手製のエプロンを送る。
- (7) 8月24日(水) 西の京養護学校にて
夏休み交流会(西の京養護学校登校日)
- スクールバスを迎えて、学級ごとに朝の会に入る。
 - 朝の会后、学級ごとに旗づくり。
 - 視聴覚教室で、各学級の旗を披露。エプロンをわたす。
 - 一緒に歌を歌ったり、踊ったりする。
 - 会議室で反省会。
- (8) 9月19日(月)
西の京養護学校に、学園祭の招待状を持参する。
- (9) 9月23日(金) 本校にて
学園祭に招待する。
- 教室展示を見てまわる。
 - 大教室で昼食をとる。
 - 講堂で、高1劇「タイタンの戦い」を鑑賞。
- (10) 10月2日(日) 西の京養護学校にて
相手校の運動会見学(午前中)。
- (11) 11月21日(月)
冬休み交流と年賀状交換についての打ち合わせ。
- (12) 11月27日(日) 西の京養護学校にて
相手校の文化祭に招待される(体育館で劇鑑賞後、一緒にホームルームで昼食をとる。)
- (13) 11月7日(水)
西の京養護学校高等部全体との、クリスマス交流会についての打ち合わせ。
- クリスマス会のはじめに、本校生徒が仮装して、キャンドルを持って入場することに決定。
 - プレゼント交換とクリスマスカードについて。
 - 出し物を本校生徒がすることに決定。
- (14) 12月19日(日)
クリスマス会の出し物決定(楽器演奏他)
- (15) 12月21日(水) 西の京養護学校にて
西の京養護学校高等部全体のクリスマス会交流会参加
- 本校生徒が仮装し、キャンドルサービス。

- 西の京養護学校教官および生徒のアトラクション。
- プレゼントおよび、クリスマスカード交換。
- ケーキを食べる。

(16) 2月13日(月)
授業を受ける交流について、先生方と打ち合わせ。

(17) 2月16日(木)
西の京養護学校にて
相手校の5、6限の授業を一緒に受ける交流。

音楽……楽器演奏

体育……ボールころがしと徒競争



「かご、りす、あらし……」あしんど!

<ろう学校グループ>

1. 本校参加生徒数 23人
2. 相手校生徒数 高等部18人
3. 経過および交流内容

(1) 5月

1年間の交流計画の話し合い。

- 一泊行事(7月)…(中止になったため「料理教室」に変更)
- 本校学園祭に招待(9月)
- ろう学校学園祭参加(11月)
- クリスマス会(12月)
- スポーツ大会(3月)

(2) 6月

手話勉強会。基礎を少し勉強した。

(3) 7月18日 本校にて

「お料理教室」交流会

- オープンサンドイッチを一緒に作って食べる。
- 食後、グループごとに座談会。

(4) 9月22日 本校にて

本校学園祭に招待

- グループごとに、劇や教室展示を見まわす。
- 昼食もグループごとにとる。
- 午後大教室で、座談会。

(5) 11月 ろう学校にて

ろう学校学園祭に招待される。

劇や展示作品を見まわり、模擬店で食事。



おいしいオープンサンドイッチ

- (6) 12月7日 ろう学校にて
クリスマス会交流。
- 1) ゲームやダンスを楽しむ。
 - 2) お菓子を食べ、ジュースを飲みながら雑談。
 - 3) プレゼント交換。
- (7) 3月19日 本校にて
スポーツ大会交流。
- 1) 一緒に昼食(弁当)を食べる。
 - 2) グループに分れ、バレーボールとバドミントンをする。
(ろう学校と本校との混合チーム)
 - 3) 最後に選抜チームによるバレーボールの試合。
(お互いに遠慮して、おみあいになったところもあったが、一緒に楽しめてよかったと好評であった。)

〔4〕4年目の取り組み(高等学校2年生) - 1984年度

<西の京養護学校グループ>

1. 本校参加生徒数 7人
2. 相手校生徒数 高等部2年生20人、教官6人
3. 経過および交流内容
 - (1) 5月9日(水)
年間計画の打ち合わせ。
 - (2) 6月13日(水)
第1回交流会の打ち合わせ。
 - (3) 6月21日(木) 西の京養護学校にて
第1回交流会…午後ホームルームに入る。
 - ・全員の自己紹介(新しいメンバーが加わったので)。
 - ・本校新メンバーによるピアノ演奏。
 - ・椅子とりゲームなどの遊び。
 - ・ダンス(全員)
 - (4) 7月24日(火)
校外学習の打ち合わせ。
 - (5) 7月31日(火) あやめ池遊園地にて
第2回交流会…西の京養護学校のあやめ池校外学習に参加。
お化け屋敷を見たり、乗物に乗ったり、動物園を見学したりした後、昼食。午後、OSKの「アラジンと魔法のランプ」を一緒に見た。
 - (6) 8月12日(日) 飛火野にて
第3回交流会…飛火野へハイキング。
保護者同伴のハイキングで、近鉄駅



あやめ池遊園地で。

前集合。飛火野まで歩いていき、芝生のところで、「中あて」や「花いちもんめ」をして遊ぶ。昼食を一緒にとってしばらく遊んでから、歩いて近鉄駅前まで帰り、解散。暑い夏の1日であったが、お母さん達とも親しくなれた、楽しい1日であった。



「たんす、長もち……」花いちもんめ

- (7) 8月24日(金) 県文化会館にて
第4回交流会…作品展見学。
 - 奈良県文化会館前に集合して西の京養護学校のバスを出迎える。
 - 一緒に、多くの学校の障害児の仲間の作品展を見学。
- (8) 9月17日(月)
本校の学園祭招待についての打ち合わせ。
- (9) 9月23日(日) 本校にて
第5回交流会…本校の学園祭へ招待。
 - 校門まで出迎え、教室発表を一緒に見てまわる。
 - 講堂で、劇「君よ知るや南の国」鑑賞。
 - 大教室で、模擬店から運んだ昼食をとる。
- (10) 9月30日(日) 西の京養護学校にて
第6回交流会…西の京養護学校の運動会見学。
 - 午前と午後のグループに分かれて見学する。
- (11) 10月10日(水)
授業参加についての打ち合わせ。
- (12) 10月15日(月) 西の京養護学校にて
第7回交流会…西の京養護学校の授業に加わる。
 - 1) 美術 — 「秋を見つけよう」のテーマで、粘土製作。
 - 2) 家庭 — 「フルーツポンチ」を作り、試食。
 - 3) 社会訓練 — のこぎりを使っての訓練。
- (13) 11月18日(日) 西の京養護学校にて
第8回交流会…相手校の文化祭見学。
「アラジンと魔法のランプ」「水戸黄門」を、高2の仲間が演じるのを見学。
- (14) 12月10日(月)
クリスマス会の打ち合わせ。
- (15) 12月13日(木) 西の京養護学校にて
第9回交流会…西の京養護学校のクリスマス会参加。
相手校各クラスの出し物見学後、本校のグループは、コップに水を入れ、演奏、および「絵かき歌」を歌って遊ぶ。前もって焼いてあったクッキーをマスコットに作って相手校生徒にクリスマス・プレゼントにする。

- 016 2月16日(土)
西の京養護学校の作品展の準備に、本校生徒の作品持参。
- 017 2月17日(日)西の京養護学校にて
第10回交流会…作品展見学。
- 018 3月11日(月)
調理実習交流についての細かい打ち合わせ。
- 019 3月13日(水)西の京養護学校にて
第11回交流会…調理実習。
 - 午前中一緒にスパゲッティ・ミートソースとサラダ作り。
 - 一緒に試食。
 - 午後あと片づけ。
- 020 3月19日(火)西の京養護学校にて
高校2年間の交流の合同反省会(相手校教頭、実習主任と高2担当教官全員と、本校担当教官および交流生徒全員)。

<ろう学校グループ>

1. 本校参加生徒数 13人
2. 相手校生徒数 18人
3. 経過および交流内容
 - (1) 4月上旬
本校高校2年生に、ろう学校交流の有志をつのり、集会を開く。
 - 1年間の計画について話し合い。
 - 代表者を決める。
 - (2) 5月上旬
ろう学校と本校との代表者の話し合い。
 - 1年間の交流計画を決める(交流の回数、交流会の内容、おおまかな日程等)。
 - (3) 6月上旬
ろう学校と本校との代表者の話し合い。
 - スポーツ大会の詳細について。
 - (4) 6月上旬
本校のろう学校交流メンバーに先日の話し合いの内容を伝達、打ち合わせ。
 - (5) 6月16日(土)ろう学校にて
スポーツ大会交流(午後2:00～5:00)
 - グループに分かれて、混合チームを作り、9人制バレーボールをする。
 - プレイしていないチームは雑談などして交流。
 - ろう学校生、ろう学校の先生、本校生で、それぞれ選抜チームを作って対戦。
 - (6) 9月8日(土)
両校代表者の話し合い
 - 本校の学園祭への招待についての詳細を決める。
 - 1) 日時、金券の金額の決定。
 - 2) メニューを持参し、食べたいものの希望をきく。
 - 3) 招待券を渡す。

- (7) 9月22日(土)本校にて
 本校学園祭に招待。(12:30～16:00)
 ・金券1人分600円分を現金と交換。プログラムを1人1冊ずつ配る。
 ・昼食は、3つのグループに分かれ、好きなものを模擬店で食べる。
 ・教室発表、舞台発表を一緒に見学後、大教室にて休憩する。この時たこやきをプレゼントする。これは昨年、ろう学校の学園祭で、みたらしをごちそうになった分のお返しである。
- (8) 11月下旬
 本校交流メンバーで、クリスマス会について話し合い。
- (9) 12月8日(土)
 両校代表者による、クリスマス会の打ち合わせ。
- (10) 12月15日(土)本校にて
 クリスマス会交流(午後1:30～5:00)
 ・調理室で調理をする(カナッペとジュース)。
 ・大教室で、立食パーティとゲームをする。
 ・プレゼント交換(300円限度)後、会費(200円)の精算。
- (11) 3月11日(月)
 両校代表者の話し合い
 ・ハイキングとバレーボール大会についての詳細を決める。
- (12) 3月21日(木)平端ファミリー公園にて
 ボーリング大会交流(雨なのでハイキングは中止)。
 八木駅西口に集合後、ボーリング場で午前中はボーリングをし、昼食後、平端ファミリー公園で遊ぶ。ボーリングはグループに分かれて、グループ戦や個人戦などをする。
 (費用1人1000円)
- (13) 3月22日(金)ろう学校にて
 バレーボール大会交流。
 ろう学校の生徒、先生、本校の生徒の選抜チームの対戦をする。

Ⅲ. 反省と考察

<奈良教育大学附属中学校障害児学級>との交流

はじめての交流であったため、本校生徒は緊張気味であった。障害をもっている生徒と接しても、自分達より運動のうまい生徒がいたりして、普通の子供と何ら変るところがないではないか、と単純に考えてしまった者もいた。障害をもっているということを、きちんと説明する必要と、障害児の実態を前もって話をしておく必要があった。同じ通学バスで、通学している生徒もいたので、「友達になろう」という生徒の気持を生かす事後指導を行わなかった点は、反省すべき点である。本校の1学年の担任が3人であるために、担当者不足という理由で、1回の交流のみで終わってしまったのは残念である。

<奈良県立盲学校>との交流

中学2年、3年と2年間にわたる交流と取り組んだが、1年目の学校訪問では、見学にとどまり、互

いの友情を深めるところまでにはいたらなかった。相手校の事情もあるので、年度始めに、相互の連絡を密にして交流の年間計画を立てる必要があった。2年目に本校学園祭へ相手校生徒を招待したが、その際、障害の程度（重複障害児）に対しての配慮が、本校生徒に欠けていたり、学校内の案内にしても、相手の意志を重んじる配慮がなされなかったことが、反省される点である。「声のたより」の交換をしていたが、計画されたから、それを実行するというだけでなく、さらに一歩進んで、個人的にも積極的に交流を深める方法を考えたいものである。2年目は、交流計画のいくつかが、相手校の行事とからんで実行できなかったのは残念であった。学年、学部としての交流には、日程上で、またお互いの生徒数のバランスの上から難があった。個人またはグループで、音楽会や美術展（友情出演、友情製作等）への参加という積極的な交流はできないものであろうか。なるべく多く、お互いに訪問し合って、直接的な触れ合いの場を持てるようになるまでにしたかった。

〈奈良県立ろう学校〉との交流

互いに6年一貫の学校であったために、4年間継続して交流できたのは幸いであった。1年目の学校訪問では、両校の生徒が、かなり緊張していて、話し合いが積極的であったとは言えない。一般校の生徒とはじめて交流するというので、相手校の生徒、教員が、いろいろ検討し、準備していただいた事は、感謝の気持ちでいっぱいであると共に、こちら側もそれに対応する十分な準備や検討をする必要性を感じた。また生徒が自主的に計画し、行動するようになっていくことが大事だと思ったが、これは、3年目、4年目の交流で、実現された。もともと本校の生徒は、他校の生徒との交流に慣れていないので、社交性に欠けるところがあるようである。この4年間の交流を通じて、男子生徒の中には、消極的な行動をとった者もいるし、このようなことに意義を見出せないと考える者もいたが、むしろ、多くの者は、単に社交性を欠いていたためと思われる。障害者に対するこだわりということより、一般に他校の生徒との交際のまずさ、不慣れがあるので、その指導が必要であった。

交流内容に関しては、ただ話し合うだけでなく、お互いに身体を動かしてつきあう「スポーツ大会」や「料理教室」が好評であり、無理なくつきあえたと思う。交流回数も、年間を通して、お互いに負担にならず適当であったと思われる。しかし、遊びの要素が多く、交流内容が年相応に成長していかなかったことは、反省点のひとつである。また、事前の打ち合わせや、準備などのために、数人のリーダーに負担がかかり、他の生徒達はまかせきりのところがあった。高校3年になって、受験勉強のために交流を終わってしまうことになったが、高校3年の最後まで続けられる余裕が欲しかったと残念に思う。

〈奈良県立西の京養護学校〉との交流

精神薄弱児については、ある程度知識をもち、頭の中では理解していても、現実に急に接触すると、心の衝撃が大きくて、最初の数回は、生徒の中にもとまどいが大きかった。しかし、作品交換をしたり、相手校の学習活動の中に入り、お互いを理解するようになると、緊張感もなくなった。実際に交流してみると、案外スムーズに楽しくつきあえたし、大部分の生徒が偏見を捨てて、障害児について、素直な気持ちで考えられるようになった。しかし、事前および事後の指導が徹底しなかったため、一部には、交流を行ったがために、かえって複雑な感情を抱いた生徒もいたようであるが、それを正しい方向へ育てていく必要があると思われる。交流計画をたてたり、運営してゆく面で、一般的に男子は非積極的、女子は積極的であった。

高校生になってからは、希望者が集まってグループを作り、交流したので、スムーズに交流できた。人数的にもまとまっていた。同学年とおしの交流から、時には、高等部全体との交流というように広がっていったので、あまりとまどいもなく、生徒どうしが早くなじんでいった。最初の間は、学校の行事中心であったが、次第に、ピクニック、料理作り、さらには、西の京養護学校の授業を一緒に受けたり、給食を一緒に食べたりして、親しい友人としてつきあえた。西の京養護学校の先生方は交流計画に対しては、どんな無理にも協力していただき、生徒達は楽しい交流を続けることができ幸せであった。友人の一人として、障害児と気さくに接すること、先生方の献身的な努力に毎回接した事により、人間に対する思いやり、理解が深まったと考えられる。型にはまった交流でなく、時には、無謀と思われる交流であったりしたが、毎回楽しかったのは、西の京養護学校の純真な交流仲間達と、努力を惜しまない先生方と、心よくつきあっていただいた保護者の方達の理解のもとに成り立っていたのだと、改めて思うとともに、感謝の気持でいっぱいである。高校2年間の交流に関しては、反省すべき点はいろいろあるが、それよりも、お互いに純真になって、毎回、毎回楽しくつきあえたことは、この交流のすばらしい一面であった。

IV おわりに

西の京養護学校とろう学校の2つの学校だけになったが、交流を4年間も続けることができた理由の一つに、互いの学校の中学と高校が接続していたということがあげられる。また、担任3人のうち2人がもち上っていったことも幸いした。しかし、学校の規模のちがいがあり、相手校は学校全体として取り組まれるのに対し、こちらは担任だけといった不つりあいがあり、相手校に迷惑をかけることがあった。

また、中学時代は、学年全体の生徒が交流に参加し、高校生になってからは有志だけとしたが、これはよかったと思う。しかし、中学時代は担任が一つの学校を担当するとして、1グループ40人となるが、この数は多すぎる。担任以外にも広げて、1グループの数を減らすことを考えた方がよかったと思われる。

交流の方針について、はっきりしたものをもたず、いきあたりばったりのことが多かったが、もう少し計画性をもった方がよかったかもしれない。しかし、あまり固若しくせず、楽しく遊ぶことを中心にしたことが、かえって長つづきした原因かもしれないと思う。

この4年間、大きなトラブルがなかったことは幸いであった。日がたつにつれ、生徒どうしが仲よくなっていくのを見るのは楽しいことであった。しかし、細かい点については、いろいろ相手校に迷惑をかけたかもしれない。特に相手校の生徒の心を傷つけることがなかったかどうか心配する。

さて、この交流はどのような意義があったのか。はじめに書いた「いじめ」はなくなったが、この交流との関係は明確ではない。学年内の生徒とおしの人間関係は次第に円滑になっていったが、それがこの交流と関係があるかどうか、はっきり言えることは何もない。しかし、私たちは、この交流を経験して生徒たちが、障害をもった人に対してより一そうの理解を示すようになること、またそれを通して心豊かになり、何らかの形で将来に生かすことになることを期待したい。

最後に、奈良教育大学附属中学校養護学級、西の京養護学校、盲学校、ろう学校の先生方には大変お世話になりましたことを深く感謝します。

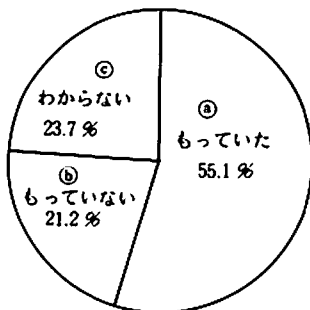
〔資料〕

交流教育についてのアンケート（中学3年）

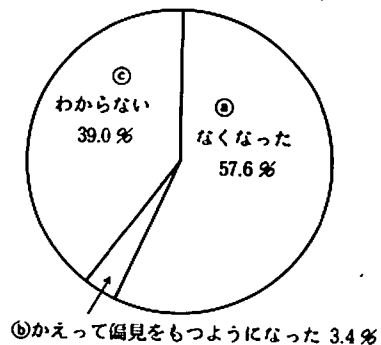
- 性別 ㉔男 ㉕女
- 交流相手校 ㉔盲学校 ㉕ろう学校 ㉖西の京養護学校
- 今まで（交流以前）、障害者に対して何らかの形で偏見をもっていましたか。
㉔もっていた ㉕もっていない ㉖わからない
- 交流教育後、その偏見はなくなりましたか。
㉔なくなった ㉕かえって偏見をもつようになった ㉖わからない
- 本校の学園祭・音楽会での交流について
 - 全体の計画について
㉔非常によかった（理由を述べなさい） ㉕よかった（理由）
㉖まずまずだった（理由） ㉗よくなかった（理由） ㉘意味がない（理由）
 - グループとして実際に障害児と接触して
㉔非常によかった（理由を述べなさい） ㉕よかった（理由）
㉖まずまずだった（理由） ㉗よくなかった（理由） ㉘意味がない（理由）
 - 特に印象を受けたこと、感じたことを書きなさい。
- 相手校を訪問して（西の京、ろう学校のみ）
 - ㉔非常によかった（理由を述べなさい） ㉕よかった（理由）
㉖まずまずだった（理由） ㉗よくなかった（理由） ㉘意味がない（理由）
 - 特に印象を受けたこと、感じたことを書きなさい。
- 今後障害児との交流を続けたいですか。
㉔続けたい（理由を述べなさい） ㉕続けたくない（理由） ㉖わからない
- 今回の交流以外に、何か他の方法で交流したらよいと思ったことがあれば書きなさい。
- 昨年度と今年度の交流であなた自身何か変化したり、学んだりしたことがありますか。
㉔ある（具体的に内容を書きなさい） ㉕全くない。 ㉖わからない
- あなたの身内に障害者がいますか。
㉔いる ㉕いない
- 10で㉔と答えた人のみ、次の項目に教えてください。
㉔親 ㉕きょうだい ㉖おじ、おば ㉗祖父母 ㉘いとこ
- 福祉について考えることを書きなさい。

アンケート結果

3. 交流前の障害者への偏見

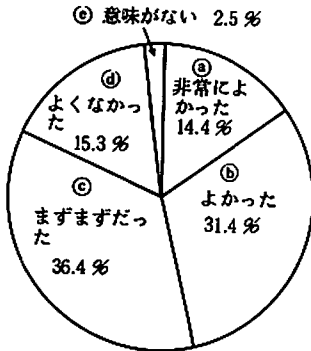


4. 交流後の偏見

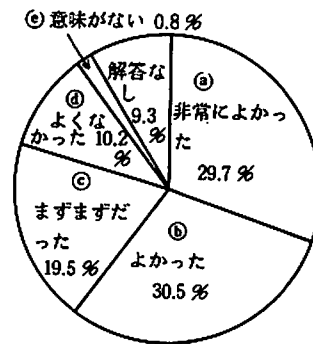


5. 本校の学園祭・音楽会での交流

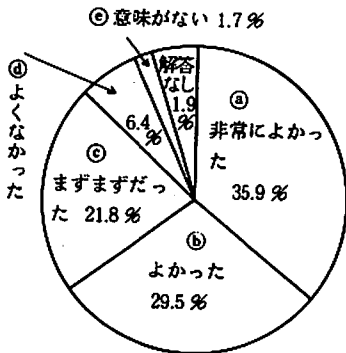
(1) 全体の計画



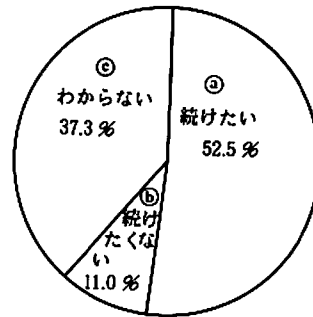
(2) グループで接触して



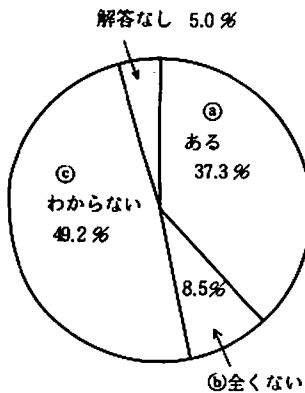
6. 相手校での交流



7. 今後の交流



9. 交流による自分自身の变化



10. 身内に障害者がいるか

